

立命館と 歩く京都

— 立命館のあゆみをたどる —



学校法人 立命館

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえ、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館 史資料センターでは資料を収集しています。

立命館 史資料センターでは、立命館の歴史に関係する文書、写真をはじめ、各種資料の収集、整理、保存を行っています。資料に関する情報をお持ちの方、ご協力いただける方は、下記までご連絡ください。

学校法人 立命館 立命館 史資料センター

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL 075-465-8209

<http://www.ritsumeit.ac.jp/archives/>

2017/4 5,000

立命館人物伝



学祖
西園寺公望
1849～1940年

京都の名門公家に生まれた西園寺公望は、1869年、御所の西園寺邸に私塾「立命館」を創設します。当時の著名な学者・文人を賓師(教師)とし、多くの若者が集まりましたが、活発な議論をする塾生に不安を感じた京都府によって、わずか1年弱で塾の閉鎖を命じられます。その後約10年間フランスに留学しますが、帰国後政治家として活躍し、文部大臣や外務大臣、さらに内閣総理大臣を2度にわたり歴任しています。政界を退いてからは最後の元老として名を馳せました。1905年、中川小十郎が立命館の名の継承を願い出ると、これを喜んだ西園寺は「立命館」の扁額を贈り許諾しました。



創業者
中川小十郎
1866～1944年

現在の亀岡市馬路町に生まれた中川小十郎は、立命館の前身、京都法政学校の創立者です。東京帝国大学法科大学(現・東京大学)を卒業し、1893年文部省に入ります。文部大臣となった西園寺公望より文部大臣秘書官に抜擢され、京都帝国大学の創設を担当しました。続いて1900年、勤労者のための私立の夜間学校「京都法政学校」を上京区東三本木の清輝楼を仮校舎として創設し、翌年広小路に移転します。立命館の名は、1913年に大学と中学の校名となり継承されました。その後中川は、実業界でも活躍し貴族院議員も務めますが、1944年に亡くなるまで終生立命館の校長・館長・総長を務めその発展に尽くします。



名誉総長
末川博
1892～1977年

末川博は山口県玖珂村(現・岩国市)に生まれました。京都帝国大学を卒業し講師・助教授・教授と歩みますが、1933年の京大事件で学問の自由・大学の自治を守るため奮闘しました。京大を去りその間講師を務めた立命館に戦後の1945年、学長として就任します。戦争の深い反省に立って、憲法と教育基本法に基づく「平和と民主主義」を教学理念として掲げ、1949年から1969年の20年にわたり立命館の総長として学園の復興と振興にあたりました。末川博が社会に開かれた大学を目指し、市民を対象として1946年から開始した「立命館土曜講座」は現在も継続されています。

立命館の歴史

1869(明治 2)年

西園寺公望(学祖)私塾「立命館」を創始(③)



西園寺公望 1866年頃(17歳頃)の姿
この3年後の20歳の時私塾立命館を創始した

1900(明治 33)年

中川小十郎「私立京都法政学校」を創立(④)

学舎は料亭「清輝楼」



中川小十郎 1897年頃(31歳頃)の姿
この3年後の34歳の時私立京都法政学校を創立した

1901(明治 34)年

広小路学舎(広小路キャンパス)へ移転(⑤)

1904(明治 37)年

専門学校令による「私立京都法政大学」への改称

1905(明治 38)年

西園寺公望より「立命館」の名称継承の許諾を得る(⑥)

「私立清和普通学校」を創立

1906(明治 39)年

中学校令により「私立清和中学校」と改称

1913(大正 2)年

財団法人「立命館」の設立

私立京都法政大学を「私立立命館大学」と改称

私立清和中学校を「私立立命館中学」と改称

私立立命館大学を「立命館大学」と改称

私立立命館中学を「立命館中学」と改称

大学令による「立命館大学」(旧制)への昇格

立命館中学、北大路学舎(北大路キャンパス)へ移転開始(⑦)

立命館中学を「立命館中学校」と改称

等持院学舎(衣笠キャンパス)開設

末川博、学長に就任(⑧⑨⑩)

1919(大正 8)年

1922(大正 11)年

1928(昭和 3)年

1939(昭和 14)年

1945(昭和 20)年



末川博 1943年頃(51歳頃)の姿
この2年後の53歳の時立命館大学学長に就任した

※()の中の数字は裏面のマップのゆかりの地を示しています。

- 1947(昭和22)年
- 1948(昭和23)年
- 1951(昭和26)年
- 1952(昭和27)年
- 1981(昭和56)年
- 1988(昭和63)年
- 1992(平成4)年
- 1994(平成6)年
- 1995(平成7)年
- 1997(平成9)年
- 1998(平成10)年
- 2000(平成12)年
- 2002(平成14)年
- 2003(平成15)年
- 2006(平成18)年
- 2007(平成19)年
- 2014(平成26)年
- 2015(平成27)年

新制「立命館中学校」「立命館神山中学校」設置
 新制「立命館大学」設置
 新制「立命館高等学校」「立命館神山高等学校」
 「立命館夜間高等学校」設置
 財団法人立命館を「学校法人立命館」へ組織変更
 立命館神山中学校・高等学校、立命館夜間高等学校廃止し
 立命館中学校・高等学校に統合(⑤)
 広小路キャンパスより衣笠キャンパスへの移転・一拠点完成
 立命館中学校・高等学校 男女共学化、北大路キャンパス
 から深草キャンパスへ拡充移転
 「立命館大学国際平和ミュージアム」開館(⑬)
 「びわこ・くさつキャンパス」(BKC)開設、理工学部拡充移転
 「立命館宇治高等学校」設置(宇治市三室戸)
 「立命館大学慶祥高等学校」設置(札幌市)
 立命館大学慶祥高等学校、江別市へ移転
 経済学部、経営学部BKCへ移転
 「立命館アジア太平洋大学」(APU)創立
 「立命館慶祥中学校」設置 立命館大学慶祥高等学校を
 「立命館慶祥高等学校」へ改称
 立命館宇治高等学校 宇治市広野町へ移転
 「立命館宇治中学校」設置
 「立命館朱雀キャンパス」開設(①②)
 「立命館守山高等学校」設置(滋賀県守山市)
 「立命館小学校」設置(北大路キャンパス)(⑥)
 「立命館守山中学校」設置
 立命館中学校・高等学校 深草キャンパスから
 長岡京キャンパスへ移転
 「大阪いばらきキャンパス」(OIC)開設



立命館 名称の由来

「立命」というのは中国の古典「孟子」の尽心章(じんしんしょう)の一節にある「夭寿(ようじゅう)貳(たが)わず、身を修めて以て之れを俟(ま)つは、命を立つる所以(ゆえん)なり」からとったもので、「人間には、若死にする人もあれば、長生きする人もあるが、それはすべて天命で決められていることである。だから生きている間はわが身の修養(勉強)に努めて天命を待つのが人間の本分を全うすることなのである」という考えです。
 したがって、「立命館」は人間がその本分を全うするための場所を意味しています。
 (裏面マップ⑰)

立命館学園の構成 (2017年4月現在)

立命館大学 衣笠キャンパス
 〒603-8577
 京都府京都市北区等持院北町56-1



- 大学**
- ・法学部
 - ・産業社会学部
 - ・国際関係学部
 - ・文学部
 - ・映像学部
 - ・国際インスティテュート
- 大学院**
- ・法学研究科
 - ・社会学研究科
 - ・国際関係研究科
 - ・文学研究科
 - ・応用人間科学研究科
 - ・言語教育情報研究科
 - ・先端総合学術研究科
 - ・映像研究科

立命館大学 大阪いばらきキャンパス
 〒567-8570
 大阪府茨木市岩倉町2-150



- 大学**
- ・経営学部
 - ・政策科学部
 - ・総合心理学部
- 大学院**
- ・経営学研究科
 - ・政策科学研究科
 - ・テクノロジー・マネジメント研究科
 - ・経営管理研究科(経営大学院)

立命館 朱雀キャンパス
 〒604-8520 京都府京都市
 中京区西ノ京朱雀町1



- 大学院**
- ・法務研究科(法科大学院)
 - ・公務研究科

立命館小学校
 〒603-8141 京都府京都市
 北区小山西上総町22番地



立命館慶祥中学校・高等学校
 〒069-0832 北海道江別市西野幌 640-1



立命館守山中学校・高等学校
 〒524-8577 滋賀県守山市三宅町250



立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1



- 大学**
- ・経済学部
 - ・理工学部
 - ・スポーツ健康科学部
 - ・情報理工学部
 - ・生命科学部
 - ・薬学部
- 大学院**
- ・経済学研究科
 - ・理工学研究科
 - ・スポーツ健康科学研究科
 - ・情報理工学研究科
 - ・生命科学研究科
 - ・薬学研究科

立命館 大阪梅田キャンパス

立命館アジア太平洋大学
 〒874-8577
 大分県別府市十文字原1-1



- 大学**
- ・アジア太平洋学部
 - ・国際経営学部
- 大学院**
- ・アジア太平洋研究科
 - ・経営管理研究科

立命館中学校・高等学校
 〒617-8577 京都府長岡京市
 調子一丁目1-1



立命館宇治中学校・高等学校
 〒611-0031 京都府宇治市
 広野町八軒屋谷33-1



立命館 東京キャンパス

- 立命館大学 海外拠点
- 立命館英国事務所
 - 立命館インドオフィス
- 地域拠点オフィス「立命館プラザ」
- 立命館プラザ京都
 - 立命館プラザ札幌
 - 立命館プラザ福岡
 - 立命館プラザいばらきフューチャープラザ
 - 立命館プラザBKC
 - 立命館プラザ名古屋

立命館ゆかりの地 散策マップ



【朱雀キャンパス】

① 朱雀メモリアルホール



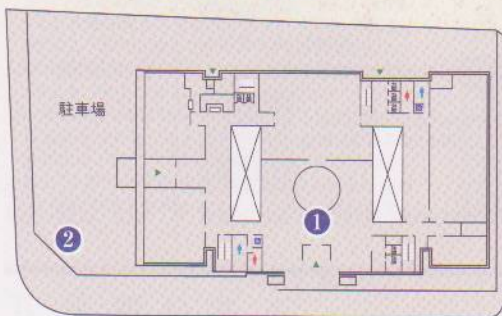
朱雀キャンパスを正面から入ると西園寺公望揮毫の「立命館」の扁額と学園創立者・中川小十郎像を据えたホールがあります。このホールの中には2001年西園寺別荘「坐漁荘」(ざぎょそう)近くの清見寺で発見された西園寺公望石膏像のレプリカレリーフと「立命館」の由来となった「孟子」尽心章(じんしんしょう)にちなんで2005年に中国政府(国務院)新聞弁公室より寄贈された孟子像があります。

② 中川小十郎記念碑



中川小十郎十三回忌に校友会・清和会の発起により1957年10月7日広小路・中川会館に建立されました。碑文は末川博総長。1979年衣笠に新中川会館が新築されるとともに移設。2006年朱雀キャンパスが開設されて、法人基本棟を中川会館と命名するに伴い衣笠から朱雀に移設しました。

■ 立命館 朱雀キャンパス 1F



【京都市内】

③ 立命館創始の地—私塾「立命館」(京都御所 白雲神社周辺)



京都御所・蛤御門東南の白雲神社付近は、学祖・西園寺公望の私邸でした。1869(明治2)年9月、西園寺公望はここに私塾「立命館」を開きました。現在は「西園寺邸跡」の標柱が建っています。

④ 立命館草創の地—「清輝楼」(上京区中之町 東三本木通り)



この地にあった料亭「清輝楼」は、1900(明治33)年、京都法政学校開校時の仮校舎でした。1997年までは旅館として営業していましたが現在は無く、記念碑が建っています。

⑤ 立命館発祥の地—広小路キャンパス跡(上京区中御雲町)



御所・清和院御門前の現・京都府立医科大学敷地は立命館が初めて取得したキャンパスでした。1901(明治34)年、清輝楼から移転して以降1981年まで立命館大学広小路キャンパスがあった場所です。現在は「立命館学園発祥之地」記念碑が建っています。

⑥ 北大路学舎—立命館中学校から小学校へ(北区小山西上総町)



この地には立命館北大路学舎がありました。1905(明治38)年広小路に開設された「私立清和普通学校」は1906(明治39)年に「私立清和中学校」、1913(大正2)年に「私立立命館中学」に、1919(大正8)年に「立命館中学」と改称した後1922年この地へ移転します。その後新制「立命館中学校・高等学校」もこの地にあって1988年深草に移転するまでの歴史を刻みました。2006年新たに立命館小学校が設置され現在に至っています。立命館小学校校門脇の石碑にある「培根達支(ばいこんたっし)」の揮毫は、西園寺公望によるもので、中国の儒学者の朱子が編纂した「小学」の題辞(序文)の一節「建学立師、以培其根、以達其支」に基づいています。その意味は「人生を豊かにし、学問を大成させるには、生き方の根本、学びの基礎・基本を若いうちにしっかり養い育てることが重要である」というものです。

⑦ 白雲荘—中川小十郎邸(上京区塔之段寺町通今出川上ル)



中川小十郎が晩年を過ごした邸宅で、1954年立命館学園の校宅となりました。1959年「白雲荘」と命名され、学園諸行事や福利厚生施設として長く使用されましたが、現在は老朽化のため使われていません。(非公開)

⑧ 私立京都法政学校創立事務所跡(中京区六角麩屋町西入ル)



1899(明治32)年朝日生命保険会社本社(現在の朝日生命とは別会社)の一室に京都法政学校創立事務所を設置し、京都法政学校創立の準備をしていました。現在は京都市生祥児童公園となっており、面影はありません。

②1 市電の歴史と衣笠キャンパスに残る敷石



京都市内にはかつて路面電車が縦横に走っていました。1895年に京都電気鉄道として開業した路面電車は1918年に合併した後京都市電となり1978年に廃止されるまで、京都市民の足として親しまれました。北大路の立命館中・高等学校、河原町の広小路キャンパス、西大路の衣笠キャンパスの生徒・学生達も毎日の通学に利用していたのです。1978年に廃止された後、市電の車両や敷石は民間に払い下げられ、車両は地域の公園遊具や図書室に、敷石は「二年坂」「産寧坂」「石塀小路」「哲学の道」の石畳などに活用されました。衣笠キャンパス以学館前の石畳も当時払い下げられた市電の敷石です。





【衣笠キャンパス】

9 創立者・中川小十郎の墓(等持院墓地内)



研心館と有心館の奥に「等持院墓地」があり、中川小十郎の墓があります。小十郎は1944(昭和19)年10月7日に亡くなり、学園葬に続いて広小路、北大路、衣笠それぞれの学舎ごとに告別式が行われました。現在も毎年墓参が続けられています。

10 「立命館」の扁額(平井嘉一郎記念図書館2階)



平井嘉一郎記念図書館2階には、「立命館」扁額が掲げられています。この扁額には「明治二年秋九月二三日」の日付があり、私塾「立命館」の塾名として西園寺公望自身が揮毫したものです。

11 「理工学部発祥の地」の石碑(修学館前)



理工学部は、1938(昭和13)年北大路に立命館高等工学校として設置され、翌1939(昭和14)年に立命館日満高等工学校に改組した後11月に衣笠に移転します。以後1949年の理工学部(新制)設置から1994年の理工学部のBKC移転までの45年間、理工学部はこの地にありました。

12 わだつみ像と立命館大学国際平和ミュージアム



「わだつみ像」は、アジア・太平洋戦争の戦場にかり出され生きて帰ることのなかった戦没学生を記念する像です。1953年12月8日広小路に設置され、平和と民主主義のシンボルとして像前での「不戦の集い」が開催されるようになりました。1969年5月大学紛争の中で破壊されましたが翌年12月に再建、1976年5月に衣笠図書館に再建立された後、1992年に国際平和ミュージアムが開館すると移設されています。国際平和ミュージアムは立命館の教学理念「平和と民主主義」を発展・具現化する教育・研究施設、社会開放施設です。開館以来日本全国の市民・児童・生徒・学生に利用されています。



13 「未来を信じ 未来に生きる」の石碑



1981年、学園創立80周年と衣笠一拠点完成(全ての学部が衣笠に移転した)を記念して建立されました。銘文は「わだつみ像」の台石の碑文から抜粋したもので、「平和と民主主義」の教学理念の下、未来を担う青年たちに大きな夢を託した末川博の精神を伝えています。

14 レリーフ「法の理念」(存心館内)



末川博揮毫で、1981年法学部の衣笠移転と法学部創立80周年を記念して存心館1階に設置されました。法学部で学ぶ学生たちに「法の理念は正義である」とのメッセージを贈っています。

15 末川記念会館



戦後、学園の復興と振興に尽力した末川博の偉業・遺徳を偲び、1983年に開館。ありし日の書斎・遺品を復元展示しています。

京都地方裁判所から移設した松本記念ホール陪審法廷も設置され、1946年末川博によって始められた「立命館土曜講座」とともに市民に親しまれています。

16 西園寺記念館



学祖・西園寺公望の自由主義・国際主義の精神を受継いで真の国際人を育成する思いを込めて1988年国際関係学部の基本施設として命名されました。現在、史資料センターが置かれ、西園寺公邸址や西園寺由来の石燈籠や庭石等が野外展示されています。館内ロビーには、西園寺が学問の深さを示して「禮記」から引用した「學然後知不足」(学びてしかる後足らざるを知る)の額と西園寺のレリーフ、「立命館由来記」があります。

開館 火～日9:00～17:00(月曜日・学休期間は閉館)見学の際は本冊子「立命館と歩く京都」を守衛にお見せください

17 立命館その由来の碑



2000年に立命館創始130年・学園創立100周年を記念して立命館大学父母教育後援会から寄贈されました。碑文は日展参事で校友の今井凌雪氏により「立命館」の由来となった「孟子」の尽心章(じんしんしょう)の一節が揮毫されています。

18 中川小十郎ゆかりの泰山竹(だいさんちく)



1919年頃、小十郎は西園寺公望の別荘「坐漁荘」(ざぎょそう)そばの旅館を常宿としていました。その庭に台湾から持ち帰った珍しい竹 泰山竹を寄贈移植しています。2002年、株分けされた竹を衣笠キャンパスに植えています。

19 立命館大学の門標



衣笠キャンパス東門の「立命館大学」の門標は、書道家の綾村坦園揮毫によるもので、広小路から移設されたものです。綾村氏は京都大学の卒業で末川総長より15歳ほど若いのですが、第三高等学校で同じ弁論部であったことから知己を得て揮毫したと伝わります(最初の門標は1953年広小路キャンパス正門に設置)

20 衣笠球場と名残の電柱表札



衣笠キャンパスには1948～1969年の間「立命館衣笠球場」がありました。大学のスポーツ施設でしたがプロ野球なども開催され市民に大変親しまれています。現在球場の名残を示すものは、「衣笠球場」の表札が付けられた電柱だけです。